

冬の寒気が身にしみる頃となりました。体調を崩されませぬよう、くれぐれもご留意くださいませ。

さて、今年もあとわずかです。皆様にとって2023年はどのような年でしたか。当社は、昨年に「we'll」意志あるところに途は拓ける」をテーマに社員が、「こうするぞ!」という意志を持ち、課題に挑戦しました。その成果も徐々に出てきております。

さらに2024年は当社が創業140年となる年です。今期は「初志貫徹、諦めない」をテーマとし、全社員が一丸となって、諦めずに挑戦を続ける年としますのでぜひ今後にご期待ください。本年は格別のご愛顧を賜り、厚く御礼申し上げます。よいお年をお迎えください。



井上通信

井上社長の一言

全社員のベースとなる共通の価値観を作りたい、との思いで10年前、社内木鶏会という勉強会を始めました。これは致知出版社の「致知(ちち)」という人間学を学ぶ月刊誌を教材にして、美点凝視の力を養う勉強会です。紆余曲折がありましたが、この度、社内木鶏全国大会四国ブロック代表に選ばれました。ウレシー! もちろん全社員が一丸となる事が何よりも大事ですが、出場する限りは「アレ」を狙いたいところですね。頑張ります!



井上のお石灰な話

～ 土佐石灰の歴史 ～

石を焼く石灰が土佐に伝わったのは、享保の頃。呉服商を営んでいた美濃屋忠左衛門と太和屋三衛門が商用で京都を訪れたときの事こと、滞在中に美濃の国の人と出会いました。曰く、「私の国では、石から灰を作って信濃灰と言って盛んに売り出しています…」とのこと。当時、呉服商としてとりわけ不景気の中にあつた、二人はこの美濃の国の人より、石灰の製法を詳しく聞き、帰国しました。

帰国後、新しい石灰製造を生業とするために、奉行所へ商売の許可を求めて願いの書を提出しました。今までの貝灰ではなく、土佐でたくさん採れる馬の骨石(※石灰石のこと)を上方へ送り、商売をしたいというものでした。

実際に、非常に、の意。

「どだろ」

土佐の方言紹介

「どだろ」

例えば、道が混んでいた時…この前、違う道から帰ったがやけんど、どだい混んじよったー」のように使用されます。このように物事の状態の程度を示す、副詞として使用されます。発音は「粗大」のように、ダイにアクセントを置きます。ぜひ、活用してみてください!



申込みください!

2023年最後の収穫を迎えてから1か月以上が経過し、全地区のワインが熟成に移りました。今後は、まろやかさや複雑味、香りや味わいの成長を見守る事となります。

弊社の取組を応援していただく「TOSA ワイン同盟」は、お申込みいただく、会員専用醸造樽で8〜10カ月熟成した特別なワインを特典としてお届けする内容です。

TOSA 稲生、TOSA 三北、TOSA 手結は会員専用の品種を使用しており、ワイナリーでは一般販売をしない特別なワインです。2023年の特典としてお送りしたTOSA 山北、TOSA 手結の飲み頃は2025〜6年頃になろうかと思えます。2024年度会員の募集も継続していますので、気になる方はワイナリーホームページからお申込みください!

